

## IAUD Newsletter vol.6 第 14 号 (2013 年 12 月下旬号) 目次

### 1. IAUD 設立 10 周年記念イベント

基調講演&パネルディスカッション概要報告・・・・・・・・・・・・・・1

### 2. IAUD 2014 年 1 月の行事予定・・・・・・・・・・・・・・ 15

## 大盛況で終了 IAUD 設立 10 周年記念イベント

特集:基調講演およびパネルディスカッション 概要報告



満員となったイベント会場

本年 11 月 28 日に設立から 10 年を迎えた IAUD は、11 月 21 日(木)に「IAUD 設立 10 周年記念イベント」を富士ゼロックス R&D スクエア(横浜・みなとみらい)で開催し、会員や自治体関係者、メディア関係者など 260 人が参加し、大盛況のうちに終了しました。

当日は IAUD 新総裁に就任した瑠子女王殿下にご臨席いただき、おことばを頂戴したほか、基調講演では岩手大学地域連携促進センター客員教授／経済産業省製造産業局の渡邊政嘉氏と国土交通省都市局の佐竹洋一氏にご登壇いただき、UD に関連する政策の紹介やオリンピック・パラリンピックに向けた課題など、非常に貴重で有益なお話をいただきました。

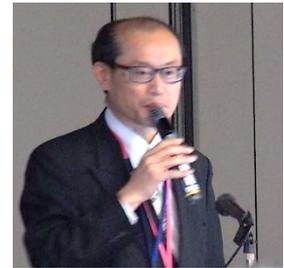
また、パネルディスカッション「これまでの 10 年、これからの 10 年～クールジャパンと海外戦略における UD～」では経済産業省商務情報政策局の諸永裕一氏など 3 名のパネリストにご登壇いただき、これまでの当協議会の主な活動や UD 普及の歩みを確認したほか、今後 10 年の展望も明らかになりました。

今号の Newsletter は、「IAUD 設立 10 周年記念イベント」の 2 つの基調講演の概要、およびパネルディスカッションのパネリスト 3 名による発表の概要をお伝えします。

「IAUD 設立 10 周年記念イベント」開催報告は Newsletter 第 13 号をご覧ください。

<http://www.iaud.net/dayori-f/archives/1312/05-222244.php>

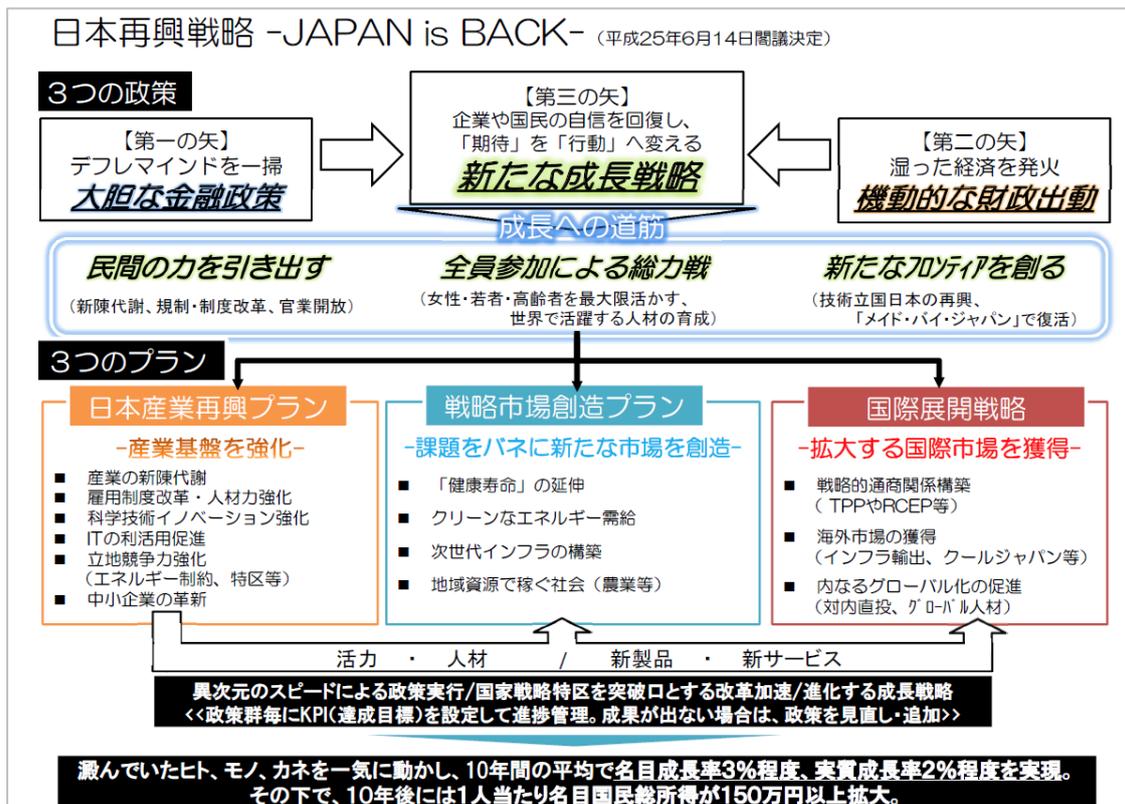
■ 基調講演:「新たな成長戦略とユニヴァーサルデザイン」  
 渡邊政嘉氏(岩手大学地域連携促進センター客員教授/  
 経済産業省製造産業局紙業服飾品課長)



日本経済再生への3本の矢

安倍政権では日本経済の再生に向けた「3本の矢」という3つの政策があります。第1の矢は「**大胆な金融政策**」。長年続いていたデフレ傾向を大胆な金融政策で一掃しようというものです。第2の矢は「**機動的な財政政策**」。デフレ傾向が一掃された後、湿っていた国内経済を財政支援で活性化していきます。

そして、3本目の矢である新たな成長戦略「**日本再興戦略-JAPAN is BACK-**」が今年6月14日に閣議決定されました。第1の矢と第2の矢を受けて、現在は企業や国民の自信を回復し、「期待」を「行動」へ変えようというステージに移っています。10年間の平均で名目GDP成長率3%程度を目指し、10年後に1人あたり名目国民総所得150万円以上の拡大を期待しています。



「日本再興戦略」実現への3つのコンセプト

1つ目は「**民間の力を最大限引き出す**」。規制改革と官業の開放を断行し、産業の新陳代謝とベンチャーの加速を目指します。2つ目は「**全員参加**」。女性や若者、高齢者の活躍の場を拡大し、世界で勝てる人材を育てていきます。3つ目は「**新たなフロンティアを作り出す**」。元々持っているものづくりの力や技術力をベースに、「技術立国・知財立国日本」を再興し世界に飛び出します。この3つのコンセプトを具体化し、成果を出して国民の暮らしに反映していきます。

## 「日本再興戦略」3つのアクションプラン



「日本産業再興プラン」により産業基盤を強化し経済を活性化します。

その力を基に、「戦略市場創造プラン」では期待される重点領域を明らし、政策的な資源を一気に投入して新たな市場を創造していく、将来期待される成長プランです。

さらに、「国際展開戦略」の実行により拡大する国際市場を獲得します。国境を越えた貿易や経済活動を自由化しながら競争に勝つ展開がされています。

## 産業基盤を強化「日本産業再興プラン」6つの柱

グローバル競争に勝ち抜ける製造業を復活し、付加価値の高いサービス産業を創出します。また、企業が活動しやすく、個人の可能性が最大限発揮される社会を実現します。

①「産業の新陳代謝の促進」民間投資拡大、企業実証特例制度の創設、新事業投資促進、事業再編促進、「産業競争力強化法（仮称）」の制定、公的支援ルールづくりなどを実施します。いままでの産業構造から将来期待される産業への新陳代謝を促していきます。

②「雇用制度改革・人材力の強化」雇用維持型から労働移動支援型への転換、民間人材ビジネスの活用、若者・女性等活躍促進、待機児童解消を加速化、大学改革、グローバル人材強化、高度外国人材のポイント制度の見直しなどを実施します。雇用維持を目的とする雇用調整助成金から、能力開発を目的とする労働移動支援助成金へ大胆に資金をシフトしていきます。

③「科学技術イノベーションの推進」総合科学技術会議の司令塔機能の強化、研究支援体制の充実、知的財産戦略などを実施します。総合科学技術会議は総理大臣が議長となり、政策投入資源にプライオリティをつけます。

④「世界最高水準のIT社会の実現」IT利活用裾野拡大のための規制・制度改革、公共データの民間開放などを実施します。

⑤「立地競争力の更なる強化」国家戦略特区の実現、公共施設運営権等の民間開放（PPP/PFI）、温室効果ガス25%削減目標のゼロベースでの見直し、電力システム改革などを実施します。公共施設運営権などを民間にコンセッション方式で開放していくなどして、立地競争力をつけていきます。

⑥「中小企業・小規模事業者の革新」個人保証制度の見直し、国際展開する中小企業の支援などを実施します。日本のモノ作りを支えている基盤である中小企業を、地域のリソースを活用したブランドを創出しながら支援します。



熱心に講演に聴き入る参加者

## 「戦略市場創造プラン」期待される4つのマーケット

世界や我が国が直面している社会課題のうち、日本が国際的強みを持ち、グローバル市場の成長が期待でき、一定の戦略分野が見込める4つのテーマを選定し、これらの社会課題を世界に先駆けて解決することで新たな成長分野を切り開きます。

①「国民の健康寿命の延伸」 予防から治療、早期在宅復帰に至る適正なケアサイクルを確立し、健康に生きられる期間をできるだけ延ばそうというものです。UDのツールや技術を応用すれば、大きなマーケットとなります。

②「クリーン・経済的なエネルギー需給の実現」 多様・双方向・ネットワーク化によるクリーン・低廉なエネルギー社会を構築します。福島の原子力事故は深刻なものがありますが、政府はそれを乗り越え、国民の生活や産業に必要なエネルギー供給をしなければなりません。日本国内に確実にマーケットがあります。

③「安全・便利で経済的な次世代インフラの構築」 最先端の技術を活かして、インテリジェント・インフラを実現します。東京周辺の基礎インフラは1964年のオリンピックに作ったものを使用しています。耐震対策も進めてはいますが、オールジャパンで見れば不十分で、確実に日本国内にあるニーズです。

④「世界を惹き付ける地域資源で稼ぐ地域社会の実現」 世界を惹き付ける地域資源ブランドを成長の糧とする、誇り高い地域社会を実現します。地域経済で雇用が生まれ、地元商店街でものを買うといった経済活動が地域レベルで安定的に達成しなければ、日本経済は潤いません。地域で頑張る対応が将来大事なマーケットになります。

## 国際市場を獲得する「国際展開戦略」4つの施策

積極的な世界市場展開と対内直接投資拡大等を通じ、世界のヒト、モノ、お金を日本に惹きつけ、世界の経済成長を取り込みます。国内外で官民一体による戦略的な取り組みを進めます。

- ①「経済連携の推進」
- ②「インフラ輸出」
- ③「中堅・中小企業に対する支援」
- ④「クールジャパンの推進」

特にこの中でご注目いただきたい重要な施策です。クールジャパン推進機構を活用したクールジャパンの戦略的な推進、コンテンツ等の海外展開の促進などを実施します。

## 脱デフレ・経済再生へ



上図の3つの好循環を起動させ、「3本の矢」効果を最大限発揮することを目指します。経済成長を促進し、投資を拡大して雇用所得を増加させます。物価があがって給料があ

がらないと困るので、企業収益も全部内部留保するのではなく労働者へ再配分し、国民一人ひとりに利益を配分する。そして、給料も増えたからこの冬は温泉旅行に行こうか、といった新たな消費欲を喚起します。

一部の業界では好景気を迎えているようですので、ぜひ労働者への配分をお願いして次へと挑戦していただきたいと思います。

## IAUD に期待すること

「3本の矢」、その成長戦略には様々なプランがあります。特に、「戦略市場創造プラン」には、UDのノウハウと技術と知恵を使わなければ解決できない大きな課題があり、そこにはビジネスチャンスがあります。

UDによって私たちの暮らしがより豊かになる、一人ひとりのユーザーとしての価値を高めていくことも大切です。

また、それを企業活動の中でうまく展開することで、相乗効果を持ってより豊かな日本を作っていくことにつなげていければと思います。IAUDの活動にも大変期待がかかります。(了)

---

## ■ 基調講演:「ユニバーサルデザイン社会の実現に向けて」 佐竹洋一氏 (国土交通省都市局総務課長)



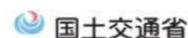
### UD 政策の変遷

政府は建築物、公共交通などで、高齢者や身体障害者等を対象としてバリアフリー化の取組みを推進するために、平成 6 年に「旧ハートビル法」、平成 12 年には「旧交通バリアフリー法」を制定しました。

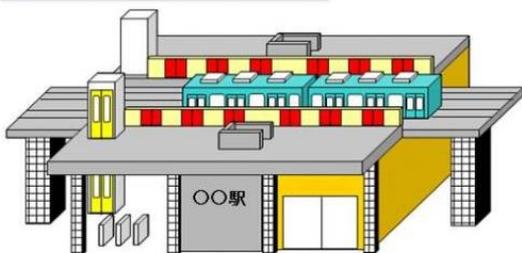
その後、平成 17 年には国土交通省で「ユニバーサルデザイン政策大綱」を策定しました。これは、「どこでも、誰でも、自由に、使いやすく」という UD の考え方を踏まえた政策を、省を横断して推進するものです。さらに、平成 18 年には「バリアフリー法」を制定し、公共交通機関や道路、駅前広場、公園、建築物などいろいろな分野で国が方針をかかげて UD を推進する方向を決めました。

### 旅客施設のバリアフリー化

#### 鉄道駅のバリアフリー化の推進



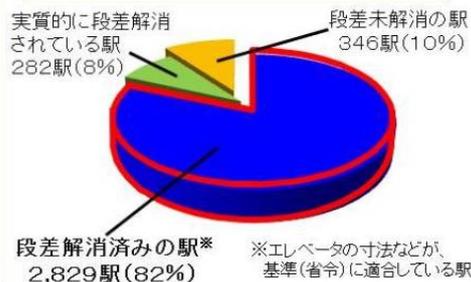
##### 鉄道駅のバリアフリー化設備



高齢者や障害者等移動に困難を伴う方々が移動可能な環境を提供するとともに、「どこでも、誰でも、自由に、使いやすく」というユニバーサルデザインの考え方に基づき、全ての利用者に利用しやすい駅として必要な設備を整備。

##### バリアフリー化の状況(段差解消)

平均利用者数3,000人/日以上  
の3,457駅のうち、  
平成24年度末で2,829駅(82%)  
が段差解消



##### 《代表的な設備》



エレベーター(段差解消)



ホームドア(転落防止)



視覚障害者誘導用ブロック



障害者対応型トイレ

9

平成 23 年の基本方針改正により、「1 日あたり平均利用者数 3000 人以上の旅客施設について平成 32 年度末までに原則 100%のバリアフリー化」という新たな目標が設定されました。これにより、首都圏の主要な鉄道駅はカバーされます。これまで着実な進捗がみられ、特に視覚障害者誘導用ブロックの整備などが進んでいます。

また、駅前の広場のバリアフリー化は国土交通省都市局で支援している事業です。JR 三鷹駅南口の駅前広場の例では、以前は階段が多く大変でしたが、ペDESTリアンデッキを作ったり、エレベーターやエスカレーターをつけたり、歩道と車道を分離するなどしてバリアフリー化を進めました。

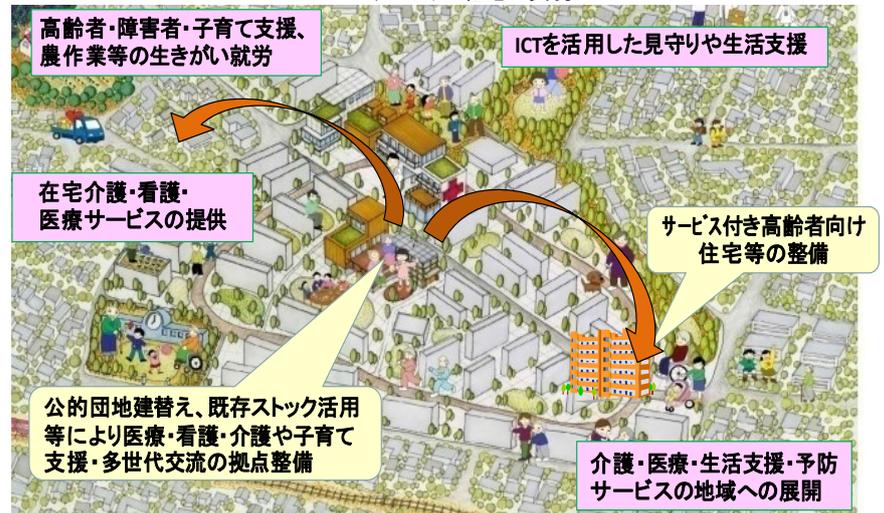
## 住宅のバリアフリー化

住宅は日本のバリアフリーの歴史でも重要な役割を果たしてきました。早くも昭和 57 年には建築設計基準が策定され、その後公営住宅や公社住宅、都市再生機構賃貸住宅などは手すりや段差がないなどのバリアフリーを標準化してきました。また、個々の住宅でも現在はバリアフリー対応が進んでいます。

また、高齢者、障害者、子育て世帯等の多様な世代が交流し、安心して健康に暮らすことができる「スマートウェルネス住宅」を実現するため、「スマートウェルネス住宅等推進事業」を支援しています。

ICT(情報通信技術)を活用した見守りや生活支援など、高齢者等の居住の安定確保及び健康の維持に関わる先導的な住まいづくりの取組みに対し、国が民間事業者に直接支援を行っています。

＜スマートウェルネス住宅の実現＞



## その他の施設におけるバリアフリー化

建築物、道路、路外駐車場、都市公園、官庁施設や合同庁舎なども、それぞれのやり方で意識してバリアフリー化に取り組んでいます。

道路については、駅周辺や官公庁、福祉施設周辺などを「重点整備地区」として優先的にバリアフリーを進める取り組みをしています。



## UD 社会に対応した歩行者移動支援の推進

高齢者や障害者をはじめ、誰もが積極的に活動できるバリアフリー環境の構築をソフト施策の面から推進することが重要です。このため、ICT を活用したバリアフリー経路案内等の歩行者移動支援を推進しています。

歩行空間ネットワークデータが整備されると、個人の身体的状況やニーズに応じて、階段、道幅、段差等を避けたバリアフリー経路の検索が可能になります。

また、様々な場面における利用者の身体的状況やニーズに応じ、スマートフォン等を通して、個人へダイレクトにバリアフリーの移動経路や地域情報等の情報を提供できます。

## 東京オリンピックに向けて UD 先進都市を形成

**オリ・パラリンピック開催地にふさわしい都市の創造** 国土交通省

**東京都の掲げる3つの政策目標** ～東京都「新たな長期ビジョン(仮称)」論点整理(H25.11)より

1. 2020年、「夢・希望・感動」を東京から世界に発信
2. 世界トップクラスの都市インフラを備えた国際都市を実現
3. 美しく風格あるユニバーサルデザイン先進都市を形成

誰もが安心して快適に暮らせるユニバーサルデザインのまちづくりや、人々を魅了する美しい景観の形成により、世界のモデルとなる成熟した都市空間を創出し、国内外から人が集まる活気ある国際都市を実現。

- ◇駅のホームドアやエレベーター等の設置促進、都道のバリアフリー化などの推進
- ◇医療機関等の外国語対応や、多様なニーズに応えた多言語の案内サインの整備などによる、国際都市にふさわしい外国人受け入れ態勢の充実
- ◇都道の無電柱化や美しく風格ある景観の創出、歴史的・文化的資源を活かした景観の形成



29

東京オリンピック・パラリンピックを控え、上図のように長期ビジョンの骨子を東京都が公表しました。そこには、「美しく風格ある UD 先進都市を形成」と明確にしています。

国土交通省におきましても、医療機関の外国語対応や外国語情報の発信など、ユニバーサルデザインの都市を目指して、支援や民間との協力を進めていきます。

1964年に第2回パラリンピックが東京で開かれました。代々木公園や東京体育館を車椅子利用者向けにスロープ整備したり、特殊なバスを導入したりしました。今はそのとき以上の努力を我々がしていく時期だと思えます。

東京オリンピックには205の国や地域が参加します。これからは日本全国に参加各国が合宿地を求め、リサーチに入ってきます。東京だけでなく全国各地で、UDやバリアフリーの対応なども含め、受け入れの誘致をしていくことになります。

我々の目指しているところは道半ばですが、国や公共団体、民間と力を合わせ取り組んでいきたいと思えます。(了)

パネルディスカッション:

「これまでの10年、これからの10年 ~クールジャパンと海外戦略におけるUD」

■パネリスト: 諸永裕一氏

(経済産業省商務情報政策局クリエイティブ産業課総括補佐)

「クールジャパンと海外戦略におけるUD」



## クールジャパンとは何か

クールジャパンとは、「衣」「食」「住」やコンテンツ(アニメ、ドラマ、音楽等)をはじめ、日本の文化やライフスタイルの魅力を付加価値に変える「日本の魅力」の事業展開です。新興国等の旺盛な海外需要を獲得し、日本の経済成長(企業の活躍・雇用創出)につなげることを目指しています。

もちろん、車や家電など日本の誇る製品を海外に売ることも狙いです。また、外国から観光で日本に来てもらうことも重要だと考えています。

## 日本が誇るUD

UDという言葉は、海外の言葉が日本に輸入されたものですが、実は日本にはもともとその考え方がありました。高齢者に使い易いようにする、または障がい者の方が社会に安心して出られるようにするなど、日本が課題としてきた取り組みが重なって、UDという言葉が広がりました。

車も海外から入ってきて、日本が世界1のものになりました。UDについても、日本はトップであり、もっと世界に誇るべきだと思っています。

## 重要となる人間関連技術

社会や経済が成熟し、これからは一層、感性や感覚が重んじられるようになり、五感や感性を活用したモノ作り、コト作りへの注目が高まっています。日本も含めて海外でも、何か物がほしいだけでなく、愛着度や満足度など経験していく中で自分に合っているものが求められています。

そのためには、UDの根源でもある人を良く知る「人間関連技術(エルゴノミクス)」の活用が重要となっています。使っている本人の感性や身体能力など対峙する人の意向を知る、日本はこの技術に長けている国です。

さらに、日本人は「ざらざら」や「つるつる」など、感覚の表現もたくさん持っています。なかには、英語にはない表現も含めて、日本の強みだと思っています。



有意義な内容だったパネルディスカッション

また、これまでは要素技術から人が実際に使う製品へとする際に、人間関連技術は最後の調整をする技術でした。これからは、長期的な視点で理想的な暮らしの実現に向けては、人間関連技術は最初に取り組み技術・考え方となります。最初の開発段階で、誰のためにどういう製品を作るかを考える。そうでないと、ユーザーに伝わらず満足されません。

今後はますます、人間関連技術は専門家だけではなく経営者など誰でも知っていなければならない基礎的な素養となります。

## 少子高齢化と経済活性化の両立

少子高齢化は日本の課題だと思われていますが、世界中で先進国でもアジアも含め高齢化が進んでいます。今の高齢者がスマートフォンは使いにくいと思っても、将来団塊の世代の方はスマートフォンが使える高齢者になるでしょう。将来の高齢者と今の高齢者は、ライフスタイルもニーズ、使用するツールも違います。

それを考えると、UD を埋め込んだ日本の製品やサービスを海外の高齢者マーケットを狙って売り込むことは、世界への社会貢献であり、ビジネスチャンスでもあるということです。

少子高齢化が進む中でも、経済が活性化していくことを技術で実現する。それが我々の考えるクールジャパンの中の UD です。

## 子ども目線でデザインするキッズデザイン

我々はキッズデザインも UD と考えています。キッズデザインは子どものための製品デザインではなく、子どもがユーザーとして対象にならないものに対しても子ども目線でデザインする取り組みです。

子どもは玩具や遊具だけで事故にあうわけではありません。子どもがユーザーでない製品でも、子どもの周辺環境にあるものは子どもの事故の原因となりえます。子ども目線での設計は、高齢者や大人の事故予防や、使いやすさの向上に向けた設計につながります。

2020 年に東京でオリンピック・パラリンピックが開催され、海外からたくさんの方がいらっやいます。そこで、海外の方の目線でデザインすることで、我々日本人へのインフラの整備にもつながります。ユーザーでない人まで目線を配っていくのが、これから十年先の UD の本質だと思います。

## 大人にも世界中でも売れているキッズデザイン受賞商品

〈皮膚体温計 H20 チビオン Touch／ピジョン株式会社〉

赤ちゃんは脇に体温計をはさむのが嫌いです。そこで、母親が赤ちゃんのおでこに手を当てて測る感覚で、たった 1 秒で測れる体温計を生み出しました。子どもだけでなく誰にでも使え、インフルエンザの季節によく売れます。



〈オープン MRI 装置「APERTO Eterna」／株式会社日立メディコ〉

親にとっても子どもにとっても精神的なストレスを感じやすい狭い空間であった MRI の恐怖感を双方取り除くことのできるデザインです。オープン型で解像度は落ちますが、子どもはお母さんと手をつないだまま検診できます。

国内だけでなく、閉所恐怖症の方が多くといわれるアメリカ市場でも売れました。



## 〈蒸気レス IH ジャー炊飯器／三菱電機株式会社〉

炊飯中に蒸気が外部に出ない機構で、重篤な子どものやけどを防止し、おいしさはもちろん、収納性も向上した炊飯器です。炊飯器の湯気は 100 度近く、やけどをする子どもが多かったため、事故防止に企業が開発を始めました。

湯気が出ず圧力がかかるので、おいしいお米が炊けるという本来の価値が高まりました。また、湯気が出ないのでどんな食器棚にも置けます。さらに、妊婦の方にはお米を炊く臭いも気にならなくなりました。(了)



### ■パネリスト:岡本一雄(IAUD 理事長)

「発足から 10 年の振り返りこれからの 10 年に向けた取り組み」



## UD へと至る歴史的変遷

UD の原型の提唱は、1960 年代からであり、70 年代にバリアフリーということばが使われはじめ、85 年に米国で UD が提唱されました。欧州では、デザインフォーオールからインクルーシヴデザインに変化しました。

90 年代の終わりに、経済産業省で「ユニバーサルデザイン懇談会」が行われ、2005 年には国土交通省が「ユニバーサルデザイン政策大綱」を打ち出しました。

UD タクシーの認定制度が昨年創設されるなど、徐々に UD の説得力が国の政策にも反映されてきました。今後、IAUD のような公益的団体との連携は、ますます重要と考えます。

## 国際 UD 会議とその周辺活動

2002 年 11 月に横浜での国際 UD 会議で、IAUD の設立が宣言されました。「一人一人の人間性を尊重した社会環境作りを UD と呼び、使い手と作り手の関係を再構築する」という言葉は、今も活動の原点となっています。

2002 年からの数年間は日本の UD の準備期間、または技術の移転期間だったと言えます。特筆すべきは、寛仁親王殿下が総裁を務めてくださった事、また山本会長はじめ企業経営トップの中心的役割により活発な活動となりました。

さらに、政府、官公庁、地方自治体、大企業、NGO が手を携えて目標に向かい、モデル都市では「ユニバーサル都市」の考え方の基に移動の UD、公共スペースやショッピングモール、店舗まで街づくりが実践された例もあります。

2004 年 12 月にリオデジャネイロで開催された「第 3 回 21 世紀のためのデザイン国際会議」に参加し、日本の各企業の UD への取り組みの優位性が注目されました。

2006 年 10 月には 2 回目の国際 UD 会議を京都で開催し、12 月には「第 2 回サステナブルデザイン国際会議 Destination2007-2025」を共催し、「サステナブルなライフスタイル 2025」として編纂協力しています。

2010 年 10 月には 3 回目の国際 UD 会議を浜松市で開催し、海外有識者から日本の UD



諸永氏、伊久副理事長、岡本理事長、成川氏

は技術の移転から発信する UD へ進化していると評価されました。

そして東日本大震災以後、UD の役割について深く考えさせられることが多くなりました。さらに 2012 年 11 月に福岡市で 4 回目の国際会議を開催し、テーマを「安全・安心～UD の基本を考える」としました。

## 主なイベント事業の進展

**48時間デザインマラソン:**2004 年からスタートした UD ワークショップは金沢美術工芸大学の荒井利春名誉教授の監修の下、2006 年の京都会議での 48 時間デザインマラソンによってユーザー参加型デザインプロセスを確立、これまで約 370 名の経験者が育ちました。開催各地の大学、ユーザーとの連携によってネットワークが生まれており、今後は製品化も視野に入れた更なる推進が望まれます。

**IAUD アワード:**一人でも多くの人々が快適で暮らしやすい UD 社会の実現に向けて、特に顕著な活動や貢献をした団体、個人を表彰します。2010 年、2012 年、2013 年に実施し、国内外から多数の応募がありました。今後は更なるグローバルな告知と推進が期待されます。

**UD 検定:**2012 年にスタートし、商品やサービス等を正しく選択できる知識、能力を身につけるなど、UD に関する基礎的、基本的知識を問う講習会&試験からなる初級検定を、これまで福岡、東京、神戸、横浜で実施しました。今後は更に中級、上級とそのレベルを上げて開催地域を広げていきたいと思います。



第 4 回 UD 検定初級

## UD の概念、環境の変化と共に

「バリア」を無くすという概念から「最初から計画する」UD が普及し、環境対応や人や地球にやさしいことの取り組みから「持続可能」という表現が一般化してきています。

さらに、東日本大震災以降、目指す目標として「安全、安心」が UD の果たすべき目標に、そして日本の再生、ものづくり革新、グローバル活動の思いが込められるに至っています。

日本のように歴史や文化をうまく継承していく国民性は貴重であり、社会システム、インフラの中にも UD の考え方が存在しています。

おもてなし、思いやりの心を大切にしつつ UD の考え方を個々の機器の改良から社会全体の改革へと発展させる方向へ進化する事が望まれます。

## 10 年後に向けた IAUD の取り組み

個々の機器の UD 化からソーシャル・イノベーションへの進展、事業展開の強化。普及啓発から研究、顕彰、認証活動の強化や活動基盤の強化などが挙げられます。

2020 年東京オリンピック・パラリンピックに向けた活動として、東京都や関係省庁と連携し、隔年開催予定の国際会議を活用して、フィールドワーク、プロトタイプング、実践～実現評価を重ね、日本のサステナブルなおもてなしを実現していきます。

## UD のグローバル展開

IAUD は関係省庁と連携、さらにはアジアほか世界の UD 団体と連携しつつ、UD コンセプトを具現化した各社の製品展示や、IAUD 主体でのワークショップ、セミナーの実施をする事により、日本のおもてなしを実践します。

そして、「国際」を冠に掲げる団体としての存在を高めていきたいと思えます。(了)

### ■パネリスト:伊久哲夫

(IAUD 副理事長／積水ハウス(株)取締役 専務執行役員)  
「積水ハウスにおけるユニヴァーサルデザインの取り組み」



## 生涯住宅思想に基づいた住まいづくり

弊社は 70 年代の早い時期から、若い方から高齢者まで生涯を通じて、いつでもどなたにとっても快適な住宅を提供しようという「生涯住宅思想」を持っていました。

初期の段階では、障害者に対して住宅をバリアフリーにする、というマイナスをゼロにする取り組みをしてきました。90 年代から UD が日本に定着してきて、あらゆる世代に対して共通のものにする流れがでてきました。そしてこれら長年の取り組みが評価されて、1999 年には国連ケアリング企業賞を受賞しています。

さらに、世に広く UD を定着させるべく、90 年に業界初の体験学習施設「納得工房」を開設しました。また、よりレベルの高い UD に対応できる人の育成も目指し、2002 年には「SH-UD マスタープランナー養成研修」を開始し、UD 設計の責任者を育てることもしています。

### 生涯住宅思想に基づいた住まいづくり

SEKISUI HOUSE

---

#### 社会とのかかわり

<p>1981年～1985年 高齢者・身体障害者 ケアシステム技術の開発 通商産業省委託研究</p> 	<p>1987年～1991年 「長寿社会における居住環境 向上技術の開発」 建設省総合技術開発 プロジェクト</p> 	<p>1999年 国連ケアリング企業賞 受賞</p> 	<p>2002年～現在 国際ユニバーサルデザイン 会議参加</p> <p style="text-align: center;"><b>IAUD</b></p> 	<p>2007年～2013年 健康維持増進住宅研究 委員会・コンノシウム参加</p> 
--	--	--	---	--

1980 > 1990 > 2000 > 2010 > 現在

---

#### 積水ハウス独自の取り組み

<p>1981年 ・身障者モデルハウス建設(横浜市)</p> 	<p>1990年 業界初の体験学習施設 「納得工房」開設</p> 	<p>2002年 SH-UD マスタープランナー 養成研修開始</p> 	<p>2011年 空気環境配慮仕様 「エアキス」発売</p> <p style="text-align: center;"><b>Airkis</b></p>	<p>2012年 スマートユニバーサルデザイン グッドデザイン賞受賞</p> <p style="text-align: center;">Smart Universal Design</p> <p style="text-align: center;"><b>GOOD DESIGN</b></p>
<p>1975年 リハビリ病院退院予定者ADL 訓練用住宅建設(熊本県)</p>	<p>1986年 ケアシステム搭載商品発売 「生涯住宅展示場」(長野県)</p>	<p>1999年 「環境未来計画」発表</p> <p style="text-align: center;"><b>KIDS DESIGN AWARD 2007</b></p>	<p>2007年 第1回キッズデザイン賞</p>	<p>2012年 IAUDアワード2012大賞 経済産業大臣賞受賞</p> 

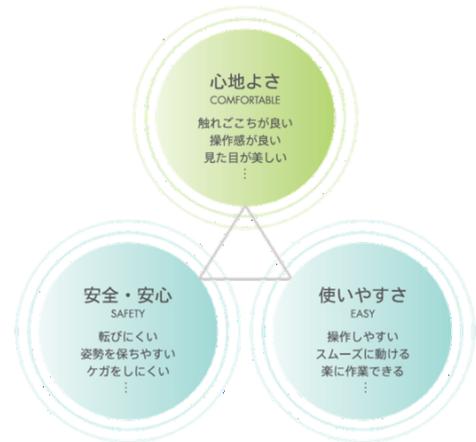
13

IAUD Newsletter vol.6 No.14 2013.12

## スマート UD

現在は、マイナスをゼロにする段階からさらにプラスにする「スマート UD」を目指しています。従来の UD である安全・安心、使いやすさというベーシックなものは当然として、さらに五感にひびく心地よさを求めるものです。視覚、聴覚、触覚、使用感の心地よさを UD の目標として取り組んでいます。

例えば、照明では人の動きに寄り添う灯りや、階段の手すりは単に安全性だけでなくふと触りたくなる心地よさや快適性を求めています。安心で使いやすいこと、そして心地よいことを UD の延長上の目標として取り組んでいます。



## まちづくり思想を世界市場へ

これまで住宅メーカーはドメスティックな業態で、弊社も海外に出ることはあまりなかったのですが、ここ数年は積極的に海外事業の展開を進めています。現在はアメリカ、中国、オーストラリア、シンガポールなど、2000～3000 戸単位のまちづくりを多くの拠点で進行中です。

今後は日本の良さである、きめ細やかなモノづくりや UD の要素を売りにしていきたいと思えます。(了)

# IAUD 2014 年 1 月の予定



月	火	水	木	金	土	日
		<b>1</b> 元旦 事務局・サロン 冬期休業	<b>2</b>	<b>3</b>	<b>4</b>	<b>5</b>
<b>6</b>	<b>7</b>	<b>8</b>	<b>9</b> 14:30～ メディアの UDPJ @IAUD サロン	<b>10</b> 13:30～ 手話用語 SWG @IAUD サロン	<b>11</b>	<b>12</b>
<b>13</b> 成人の日	<b>14</b> 13:00～ 衣の UDPJ @IAUD サロン	<b>15</b>	<b>16</b>	<b>17</b>	<b>18</b>	<b>19</b>
<b>20</b> 15:00～ 研究部会 @IAUD サロン	<b>21</b>	<b>22</b>	<b>23</b> 14:00～ 労働環境 PJ @未定	<b>24</b> 11:00～ 協同事業検討 委員会 @IAUD サロン 13:00～ 運営委員会 & 実行委員会 @IAUD サロン	<b>25</b>	<b>26</b>
<b>27</b> 14:00～ 住空間 PJ 三鷹天命反転住 宅 見学会	<b>28</b>	<b>29</b>	<b>30</b>	<b>31</b> 13:30～ 標準化研究 @IAUD サロン		

※事務局と IAUD サロンは 12 月 28 日（土）から 1 月 5 日（日）まで休業します。

Newsletter では、誌面を会員の皆さまの UD に関わる情報交換の場と位置づけています。ぜひ、会員企業の UD 商品開発事例や PJ/WG の活動成果事例等の情報、国内外の UD 関連イベント、シンポジウム等の開催情報をお寄せ下さい。

次号は 2014 年 1 月中旬発行予定

新春特集：瑤子女王殿下総裁からのおことば／IAUD 10 年の歩み（予定）

**無断転載禁止**

IAUD 情報交流センター（IAUD サロン）：  
〒104-0032 東京都中央区八丁堀 2-25-9 トヨタ八丁堀ビル 4 階  
電話：03-5541-5846 FAX：03-5541-5847 e-mail：[salon@iaud.net](mailto:salon@iaud.net)